

浜町から 風の便り 44 2022 (令和4) /6/1. 船橋市浜町 辻 秀幸

臭腺 (昆虫綱カメムシ目カメムシ科)

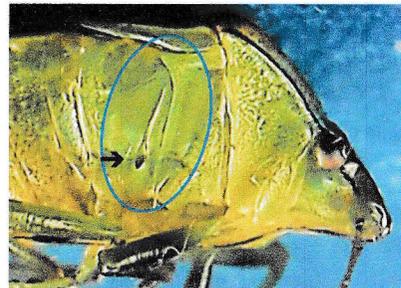
山崎秀雄先生著の『昆虫博士入門』(全国農村教育協会刊)でカメムシの臭腺(しゅうせん)のことを知った。カメムシは公園でよく見つかる。実物を見たくなった。見た撮った。

臭腺でくさい物質を作って、命に係わりそうな攻撃を受けると臭孔(しゅうこう)から発射する。密閉した容器の中で自分のにおいて死んだ例もあるというから、かなり強力な武器といえよう。自ら悪臭攻撃にうってでるわけではないので、専守防衛。日本国憲法だ。墨守という言葉を思い浮かべる。攻撃を跳ね返す力と、兵糧攻めに耐える備えがあってこそ墨守は成り立つと、ものの本に書いてある。

食おうと襲った虫や鳥は懲りて、以後くさいヤツを襲わなくなる、という仕掛らしい。襲われたカメムシは死なずに済めばもうけもの、でも多分再起不能だろう。しかし、かくして種全体は維持される。種のためにお前がそのカメムシになれ、と言われたら、私は真っ平御免お断り申し上げる。国が守られるのは結構なことだが、その時私は存在しない、役に立ったと私自身は知ることができない。よくやったと、あとで生き返らせてくれるなら考え直してもいい。でもオカミは上手に命令してくるのだろうな。

専守防衛の手段としては、ひたすら逃げるのが多いようだ。形をまわりに似せる方法で有名なのはナナフシ。死んだふりという技もある。クマに出会ったら死んだふりしろ、というのはよした方がいいらしい。出会わないようにするのが上策。

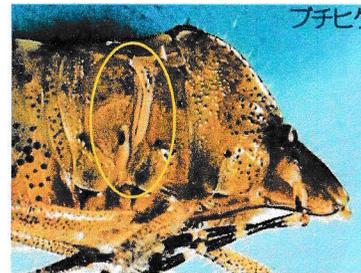
そんなことは写すときは考えずに、せっせと臭孔撮りに励んだ。クサギカメムシやミナミアオカメムシでそれらしい小さい穴と長い穴がみつかった。小さい穴がそうだろうと思いついていたら、カメムシ専科の本には、長いのと小さいのを含めた部分を示す説明図があって、わからなくなった。説明図は、臭孔ではなくて臭腺の場所を示しているのかもしれない。種や成長段階で穴の形や場所は色々らしいので、写せた、と喜んで



チャパネアオカメムシ
丸く囲んだ中にある「穴」の 多分矢印が臭孔

⇐ 2019/7/11.
船橋・浜町1.
「浜町公園」

⇒ 2021/6/2.
船橋・浜町1.
「浜町公園」



フチゲカメムシ

2021/10/26.
船橋・浜町1.
「浜町公園」



2019/7/25.
船橋・浜町1.
駐車場
ミナミアオカメムシ

いる私にはこの辺までがせいっぱい。でもすっかりしないなあ。

くさいにおいというイタチが悪い浮かぶ。植物で有名なのがラフレシア(ラフレシア・アルルディエ)。世界一大きい花でとんでもなくくさいという。体験したくはない。でもバラの仲間ですって。こちらは反撃ではなくて、ハエなどの虫を呼び寄せて花粉を運んでもらうため。

人間もくさい。イヤな人間を遠ざけるためではなく、食べ物や加齢によって否応なく身に付く。結果的に距離を置いてつき合うことになるという哀しい定め。男くさいのは敬遠されるが、常にそうであるわけではないらしい。

若い女性に、若い男性の肌着を嗅がせて、好ましく感じるか否かを聞く実験というものを見た。好ましいとした女性かなりの割合で居た。生まれ持ったDNAによるのだろうし、好きだった男親の影響もあるだろう、ということだった。

カメムシの出すにおいはくさいとは限らないで、芳香とを感じるものもあるそうです。私は自分で試してみるほどの興味を持たない。香水の原料も、通常は悪臭だというものがあるそうですから、においの量にもよるのでしょう。嗅ぐ人にもよるでしょう。

カメムシの専守防衛システムの反撃プログラムには、そっとつまむ程度ならもがいて逃げる反応だけが設定されているようです。出会った時は背中をなでなでして岩合光昭さんのように猫なで声でいい子だねえ、と声をかけてあげてください。



クサギカメムシ

⇐ 2019/6/7.
船橋・浜町1.
「浜町公園」

⇓ 2021/6/2. 船橋・浜町1. 「浜町公園」

